

# 四国88カ所 建築巡礼について



四国支部  
徳島地域会  
清水裕且

四国支部では、『建築巡礼 四国88カ所ガイドブック』というものを刊行しています。そして、数年に一度、各県で88建築を巡礼するツアーである「88ツアー」を開催しています。まず、その趣旨や流れを説明したいと思います。

## 建築巡礼四国88カ所とは

「私たちの建築巡礼四国88カ所は弘法大師が修行し悟りを開いた足跡をたどる四国霊場88カ所にちなんで巡りにちなんで構想された。

人々は霊場を巡りつつ、今もこの四国の地で同行二人、大師と共に御堂の佇まいに心を癒し自然に包まれ安らぎそして精神的な力を得て、明日を生きるための活力としている。驚かれるかもしれないが、このような霊場のもつ精神的な力は私たち建築家が生み出す建築作品にも宿っている。

明治時代の浄水場——入念に積まれた煉瓦の壁に、当時の人々の使命感が伝わってこないだろうか。

岬にそびえる灯台——風雨に耐えて建つ姿に、共感を覚え励まされないだろうか。

山間に佇む茶堂——使い込まれた造作に、神と自然と村人が集う生活を見ないだろうか。

コンクリート打放しの庁舎——見事に打たれた壁面に、建築家と技術者の英知と努力を感じないだろうか。」

(建築巡礼四国88カ所特別委員会委員長・山本忠司／『建築巡礼 四国88カ所ガイドブック』(vol.1) 巻頭より抜粋)

そこで、四国の優れた建築88作品を取り上げたガイドブックが1998年につくられました。その後、2014年にリストを更新し、vol.2がつくられました。



(右)『建築巡礼 四国88カ所ガイドブック』vol.1  
(左) vol.2

## 88ツアーとは

ガイドブックには普段はなかなか体験できないプライベートな建築も多数掲載されていますが、掲載するだけでなく、そういった建築を実際に見る機会を提供することも大切です。また、同じ建築を皆で体験し、各々が感じたことや個人的な見方などを共有することで大変勉強になります。

88ツアーはそういった意味で非常に貴重な機会になり得ると思います。

## 2016年、88ツアー（高知）に参加して

前回の88ツアーは2016年に高知で開催されました。

まず最初に訪れたのが、「高知県知事公邸・私邸」(村野藤吾設計、1963年)。軽やかな箕甲屋根、それを支える柱は鉄骨を檜でカバーした細柱、雁行配置されたリズムミカルな外観。桂離宮の写しとも思われる手法が各所に



「高知県知事公邸・私邸」軽やかな箕甲屋根



「高知県知事公邸・私邸」庭に面して雁行配置された外観



「沢田マンション」(高知) 外観



「沢田マンション」自由に出来上がったであろう路地空間

見られ、村野藤吾のデザインエッセンスが感じられる名建築でした。

次に訪れたのはセルフビルドで有名な「沢田マンション」。オーナーさんのお話も聞くことができましたし、なんといっても肩肘張っていない自由さには建築の原点みたいなものを感じさせられました。

これらの対照的な2つの建築を同時に体験することで学べるがありました。

### 今年の88ツアーは徳島で開催

そして今年3月23日に徳島で開催しました。徳島では、「建築家の自邸」というコンセプトのツアーにしました。

1軒目のM邸(倚渦)は、スリット状の天窓から降り注ぐ光が美しく、グリッドを外さない端正なプランで、建築家のこだわりの強さが魅力的でした。

2軒目のT邸(サイタハウス4)は、天井高を限界まで下げたエントランスから、大きなトップライトがある吹き抜け空間に入った時の開放感が心地よい住宅でした。床レベル差をうまく利用して、ワンルーム空間をさりげなく分割していました。

3軒目のI邸(cow house)は、牛舎を改装し、母屋と繋げたユニークなプラン。明暗、新旧の二元対比が、面白いほど空間を豊かに作りあげていました。



M邸~倚渦(徳島)



T邸~サイタハウス4(徳島)



I邸~cow house(徳島)

以上、それぞれ建築家の個性が表現されていて、それらをまとめて見学することは非常に面白い体験となりました。

最後に、ガイドブック vol.1 巻頭の山本忠司氏のことばで終わりにしたいと思います。

「四国建築88カ所を巡ることにより多くの人が建築作品のささやきに耳を傾け、それが心の支えになることを、また多くの建築に携わる人々が建築作品の語りかけを自らの糧とするよう祈っている。」

(建築巡礼四国88カ所特別委員会委員長・山本忠司／『建築巡礼 四国88カ所ガイドブック』(vol.1) 巻頭より抜粋)